

# 新宮高等学校

実施日時	令和元年 10月 4日 (金)
参加者	生徒176名、教職員12名 計188名
実施内容	応急手当訓練、搬送法、土嚢積み体験、ロープワーク訓練 テント体験、JRによる臨時列車緊急避難訓練等

## ねらい

1. 県教育委員会主催の「県高校生防災スクール」事業の一環として講義や訓練を通して高校生の防災意識を高める。
2. 地域防災のリーダーとして災害時に活動できるような生徒の育成を目的とする。

## 主なプログラム

1. 防災についてのDVD学習等（消防）
2. 応急手当、搬送法（消防）
3. 土嚢積み体験、ロープワーク、テント設営（自衛隊）
4. JRによる臨時列車緊急避難訓練（JR）

## 概要

1. 1学年30名と引率教員2名が、JR緊急避難訓練に参加
2. 1学年生徒146名が2グループに分かれて消防・自衛隊による防災スクールに参加

## 参加者感想文

人を助けるためにまず自分から行動しないといけないと改めて思った。自分から行動することが大切だと学んだ。私はまず人を先に助けたいと思っていたけど、この防災スクールでまず自分を先に助けなければいけないことが分かった。

実際電車に乗っていた時に災害が起きたら恐怖と焦りで逃げるのが遅くなってしまうかもしれないと思ったが、一緒に懸命に走って逃げようと思った。

実際に災害が起きたときこのような行動をすることができるかわからないが、できるだけ自分や身近な人たちの身を守る行動をとれるよう心がけたい。救命では、怪我をしている人を移動させるときにひとりでもその人を運ぶ方法や二人で運ぶ方法を学び、非常に勉強になった。

学んだことをこれからの緊急事態の時に活かせるようにしっかり覚えておこうと思いました。災害時などの怪我人の楽な運び方（脇の下から怪我人の腕を掴み後ろに引く）や、心肺蘇生法（1分間に120回程度）を学び、実践した。また、ロープを結んで自分の体を固定したり、自衛隊の8人用簡易テン

トを組み立てたり、近年の台風での浸水被害を防止する為に土嚢を積んだりした。(衣装ケースなどに重い物を入れレジャーシートをかぶせると簡易のものも作れる) 災害時にはこの授業で学んだことを生かして行動し、たくさんの人の役に立てるといいなと思った

今回行われた防災スクールでは、実技面では、心肺蘇生法(心臓マッサージ)や運搬術、テント張りなどの基礎的なものを学んだ。いつか必ず起きる南海トラフ大地震に対する防災意識が改めて強くなった。もし、地震が起こった時、今回学んだことを冷静に実行出来るかは不安だ。それでも、自分に出来ることをやり遂げるようになっておきたいと思った。

防災スクールを通じて、様々なことを知ることが出来ました。僕は電車乗車時に地震が起こった時の対応を学んだり、○×問題でさらに深く掘り下げました。中には知らないことがあり、驚くこともありました。特に、災害時に電車のドアを開けるレバーの場所を知ることが出来ました。僕も電車通学生なので、電車通学時に、南海トラフやその他非常事態になったとしても防災スクールで学んだことを活かし、対応できるようにします。

地震や津波に関しては、今までも学んできましたが、それでもやはり少しでも高く、少しでも早く逃げることの大切さを学びました。また、ロープワークや土嚢などについては、この地域は台風などからも離れることができないので、いつか覚えておいてよかったと思えるのかなと思いました。

## 成果と課題

### 【成果】

今回の防災スクールは、生徒に様々な体験をさせることで、実際に災害が発生したときに何ができるのかを学ばせることが目的であった。eポートフォリオに感想の入力をもとめ、振り返りも行ったが、すべての感想を読むと概ね前向きに反応しており、生徒自身が災害時に周りの役に立てるように高い意識を持って防災スクールに臨んでいたことがわかった。更に、JR・消防署・自衛隊に協力をしてもらえたおかげで、充実した内容となった。

### 【課題】

防災意識は生徒に根付き始めているように見受けられるが、定期的に防災意識を持たせるような取り組みが必要である。防災体験に限らず講演を聞いたり、本を読むなど生徒みずからが防災について学ぶ姿勢を身に付けていけるように普段から仕向けることも必要であると考えている。総合的な探究の時間なども活かして取り組みをしていきたい。

